

## 学級経営・実践研究法キャリアアップフィールド

### コース名：デジタル学習素材を利用した教材開発

カリキュラム開発専修 益子典文

#### 1. 「デジタル学習素材を利用した教材開発」コースとその内容

本コースは、「学級経営・実践研究法キャリアアップフィールド」に分類されたコースであり、益子がインストラクタとして担当した。

近年話題となっているデジタルコンテンツを用いた授業設計を主たる目的とするものである。このコースでは、デジタルコンテンツを広義にとらえ、デジタルカメラやスキャナでパソコン上に展開されたデータすべてを「デジタルコンテンツ」とし、一般教室でノートパソコンとプロジェクターを用いた授業展開を考えるものである。

授業の設計にあたっては、授業のどの時点で、どのような資料を学習者に提示するのかを考える必要があるため、授業展開における学習者の認知面および情意面の変化を予測しながら、学習者に提示するデータの選定を行う。

コース終了後には、何らかの形で開発した教材を授業で活用し、その結果を報告することを目標とした。

#### 2. コース文書等の準備

講義初日を迎える前に【コース文書】(AIMS-Gifuのコンテンツの分類カテゴリーの1つで、ボタンを押すとそのカテゴリーのコンテンツが表示される。以下同様。)にあらかじめ講義内容を文書化したもの(A4・PDF版16ページ、PDF文書を見ることができない可能性を考慮し、「学習ユニット」としてブラウザで閲覧可能としたもの15ページ)をアップロードした。また、インターネット上の様々なデジタルコンテンツへのリンク集(各々のリンク先への解説とともに、全部で19Webサイトへのリンク)を作成し【Webサイト】に登録した。

#### 3. AIMS-Gifuの活用

本コースの受講者は7名(小学校教諭3名、中学校教諭1名、高等学校教諭2名、養護学校教諭1名)であった。

対面式の講義である第1日目(8月2日)と5日目(8月30日)の間には、約1ヶ月の期間が設定された。この期間内に、AIMS-Gifuを円滑に利用するため、講義初日には、まず午前中に講義の目標と内容を解説した後、午後にAIMS-Gifu利用の演習を行った。

#### 4. 課題設定

10年目研修受講者は、8月中、大学研修以外にも様々な研修を抱えており、AIMS-Gifuにアク

セスする機会を設定しないと、何もしないまま5日目を迎える可能性が大きいと予測された。

そこで、掲示板を利用し、期日を指定した上で、1週間に一度は掲示板のスレッドへの投稿を課題として、講義前にすべてのスレッドを作成して提示した。作成しておいたスレッドは、「8月15日(日):第一回中間報告」「8月22日(日):第二回中間報告」「8月29日(日):第三回中間報告」および「よろず質問箱」である。「よろず質問箱」への投稿は0であったが、週に1回の投稿はすべての受講者が投稿を行った。

## 5. 5日目(最終日)の研修

最終日には、すべての参加者が何らかの教材開発を終え、午後には発表会を実施した。

その後、話し合いの後に改善点等が明確になったため、①教材の改善にあたって分からないことがあった場合には【掲示板】内の「質問疑問・近況報告」フォーラムに質問を投稿すること、②最終的な教材を9月26日までに掲示板へ投稿すること、③質問以外にも、活用した結果等も掲示板へ投稿すること、を課題として最終日の対面式研修を終了した。

結果的に全員が教材開発を終え、その後も【掲示板】への投稿が続いた。図1に【掲示板】内のフォーラムの一部を示す。

## 6. メインコンテンツへのアクセス数

本コースのBlackboardのメインコンテンツエリアへのアクセス数の集計結果を図1に示す。集計期間は、講義前日から2004年12月31日までである。

最もアクセス数が多いのは【アナウンス】である(全862回)。「アナウンス」へは適宜、課題やその締め切りを掲示していたので、自分がやるべきことの確認のためのアクセスが最も多かったことになる。次にアクセス数が多かったのは【コース文書】である(全270回)。コース文書には、デジタルコンテンツを活用した授業設計の文書がPDFならびに学習ユニットとして閲覧可能な状態になっていたため、2日目から4日目にかけて課題を実施するために参照されたものと考えられる。その他のコンテンツへのアクセスは、7名という人数を考慮すると、比較的少数であったと言える。

エリア名	ヒット数	パーセント
[1] アナウンス	862	63.66%
[2] シラバス	18	1.32%
[3] スタッフ情報	50	3.69%
[4] コース文書	270	19.94%
[5] 課題	58	4.28%
[6] 書籍	0	0%
[7] 外部リンク	96	7.09%
合計	1354	100%

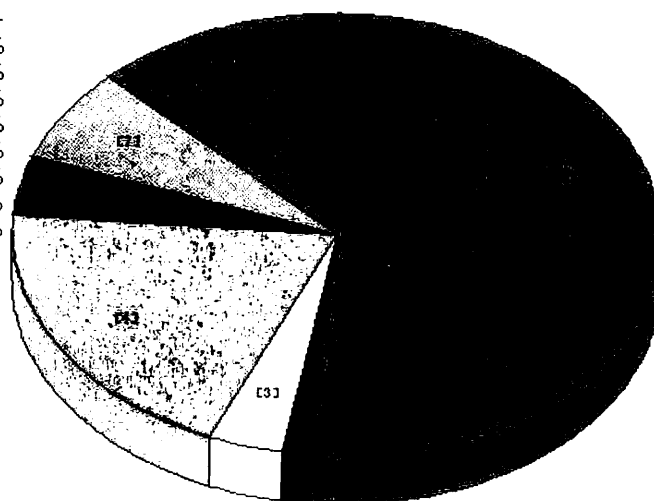


図1 メインコンテンツへのアクセス数

## 7. コミュニケーションのためのアクセス数

Blackboardのコミュニケーションのための機能は【コミュニケーション】(複数の機能がリスト表示される),【Eメール送信】(指定したユーザーにEメール送信できる),【ユーザーリスト】(電話番号やメールアドレスを検索する),【掲示板】(スレッド方式の掲示板),【コラボレーション】(チャットやホワイトボード等同時的コミュニケーション),があるが,アクセスの95%以上(4646ヒット中,4495ヒット)が【掲示板】へのアクセスであった。したがって,コミュニケーション機能へのアクセスの頻度は,ほぼ【掲示板】へのアクセス数と考えてよい。

図2にコミュニケーション機能へのアクセス数を期間毎に集計した結果を示す。この集計も学生のみを集計である。この図を見ると,ピーク毎に何らかの課題またはイベントがあったことが示唆される。まず,第一のピークは講義初日午後実施された,掲示板の練習である(8月2日)。その後,第1回中間報告(8月15日),第2回中間報告(8月22),第3回中間報告(8月29日)のピークが現われ,第5日目の大学研修終了後には,レポート提出前の第4回中間報告(9月12日)が続く。

次のピークは,9月26日に設定された教材提出である。その後,9月28日以降にも新しくスレッドを設け,お互いの近況報告を行ったところ,11月上旬までコミュニケーションが継続した。また,11月20日近辺のやや低いピークは,お互いに直接会って話をしたいという希望があり,直接対面した後の交流である。

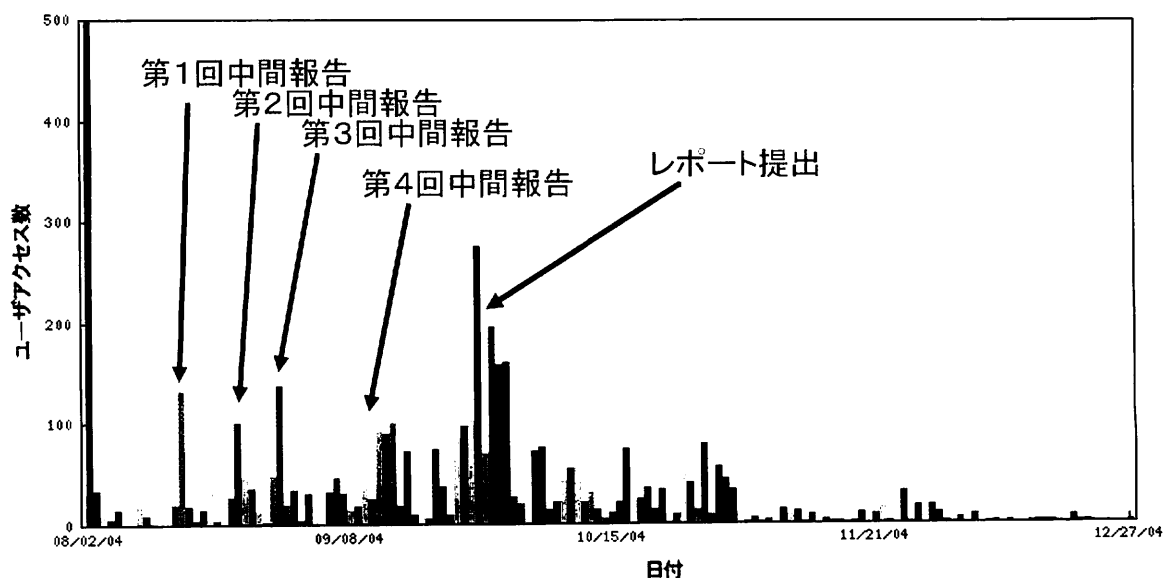


図2 コミュニケーション機能へのアクセス数

掲示板を通じたコミュニケーションは,このように,5日間の大学研修終了後も継続し,現在も少しずつ続いている状態である。

## 8. おわりに

掲示板による非同時的コミュニケーションが活発な講義であった。レポート提出後も,研修開始前にはほとんどパソコンを利用したことのなかった受講生が,FLASHを冬休みに学習し,新たに開発した教材を投稿してくれたり,修学旅行で撮影した写真を教材化したものを投稿して

くれたりと、交流が続いている。

対面するのは2日間のみであるが、このような形で現職教員との交流を図ることができる機会が得られるのは、貴重であると感じている。